

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM

発行: 関西学生サッカー連盟
2012年7月7日発行



第36回 総理大臣杯
全日本大学サッカートーナメント
2012年7月8日(日) 1回戦

前年度優勝
大阪体育大学!!

PHOTO: 飯嶋玲子



第36回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント 1回戦



(PRIME MINISTER CUP 2012)

【会場】
大阪長居スタジアム
キンチョウスタジアム
大阪長居第2陸上競技場
J-GREEN堺



大阪長居スタジアム

7/16(月・祝)

18:00

キンチョウスタジアム

18:00

長居第2

18:00

長居スタジアム

18:00

堺S6

15:00

早大

修大

静大

仙大

中央大

岩教大

福教大

大體大

福岡大

新福大

平国大

阪南大

青学大

姫獨大

愛媛大

東園大

関西大

富士大

寺修大

日経大

中京大

関学大

北陸大

国士大

高知大

岐経大

鹿体大

駒澤大

びわこ

I P U

道都大

筑波大

7/8(日)

7/10(火)

7/12(木)

7/14(土)

7/16(月・祝)

関東1 中国2 東海3 東北1 関東4 北海道1 九州4 関西2 九州1 北海道2 関東8 関西3 関東6 関西6 四国2 東海1 関西1 東北2 関東7 九州2 東海2 関西5 北海道1 関東3 四国1 東海4 九州3 関東5 関西4 中国1 北海道2 関東2

※何らかの理由により、決勝戦が7月16日(月・祝)に行えなかった場合、7月17日(火)に同会場、同時間で行う予定です。

静岡大学 V S 仙台大学 12:30 KICK OFF 於:S6フィールド

東北の雄・仙台大に17年ぶりの総理大臣杯出場を果たした静岡大が挑む。

「粘り強い守りから一気に攻撃に転じるのが、うちのサッカー」。静岡大の難波邦雄監督はそう話す。飛び抜けた選手はいないが、持ち味である素早い攻守の切り替えを90分間貫き通して最後に勝利を手中にする。エースは総理大臣杯出場を争った東海大学選手権で4試合4得点のFW10, 谷尾隆博(4年)。高さはないが得点感覚に優れ、ここぞという場面で決定力を発揮する。確かな技術で中盤をリードするボランチの6, 落合史裕(4年)から谷尾へのホットラインが繋がれば即、大きなチャンスとなる。

一昨年に4強入りした仙台大だが、昨年は東日本大震災の影響もあって力を発揮しきれずに1回戦負け。今年は本来のサッカーを存分に見せてくれるはずだ。注目は特別指定選手としてJ1・ベガルタ仙台でプレーする4, 蜂須賀孝治(4年)。センターバック、サイドバックをこなし、4-3-3の布陣では中盤のアンカーを務め、正確なロングフィードで攻撃の起点となる。また、ボールポジションを高めるため、静岡大のプレスをどうかわすかもポイントになりそうだ。

(読売新聞運動部 藤田真則)

早稲田大学 V S 広島修道大学 15:00 KICK OFF 於:S6フィールド

早稲田大は昨年、1回戦で優勝した大阪体育大にPK戦の末に敗れた。今年はその無念を晴らす舞台となる。関東大学トーナメントを制し、リーグ戦も前期終了時点で3位につけるなどチームは好調を維持する。その中心がFW10, 富山貴光(4年)。全日本大学選抜メンバーでもあるストライカーはフィジカルを生かしたポストプレーに加え、相手DFの背後を突くスピードも兼ね備える。また、富山と2トップを組む9, 榎本大希(3年)も絶妙のポジショニングでゴールを奪う。今大会も2人の活躍が勝利への鍵になるだろう。

対する広島修道大は5年ぶり2度目の出場。前回は初戦で敗れており、悲願の1勝を目指す。布陣は3-5-2。最終ラインからボールをつなぐ攻撃サッカーは、地元のJ1・サンフレッチェ広島を思わせる。「(早大は)簡単な相手ではないが、全員がハードワークして何とか初戦を突破したい」と中川慎監督。期待の選手はFW38, 横井恵一(4年)。攻撃の起点として前線でのボールキープはもちろん、エースとして勝利に導くゴールを決める。チームスローガンは「逆境に打ち勝つ」。選手一丸で早稲田大という「壁」を乗り越える。

(読売新聞運動部 藤田真則)

中央大学 V S 北海道教育大学岩見沢校 12:30 KICK OFF 於:S13フィールド

昨年惜しくも準優勝に終わった中央大。攻守にタレントがそろそろ今年も優勝候補の一角に名を連ねる。攻撃的な4-3-3の布陣で司令塔を務めるのがMF7, 六平光成(4年)。金メダルを獲得した昨年のユニバーシアード、今春の大学日韓定期戦で日本代表に選ばれた全国屈指の好選手は前線に決定的なパスを送るかと思えば、自ら持ち込んでシュートを放つなど攻撃に様々なアクセントをつける。白須真介監督は「六平に相手の意識が向けば、今度は周りの選手が動きやすくなる」と話す。

対する北海道教育大岩見沢校は昨年ベスト8入り。また昨季の天皇杯1回戦で、中央大を破って総理大臣杯を制した大阪体育大をPK戦の末に退けるなど侮れない存在だ。選手の入替わりはあるが、細かくボールをつなぐ攻撃的なパスサッカーのスタイルは変わらない。「中大には、こちらが120%の力を出しても勝てるとは限らない。でも、自分たちのスタイルを貫いてどこまで通用するかを見てみたい」と越山賢一監督。相手の出ばなをくじくことができれば、ジャイアントキリングも十分可能だ。

(読売新聞運動部 藤田真則)

福岡教育大学 V S 大阪体育大学 15:00 KICK OFF 於:S13フィールド

連覇を狙う大阪体育大と10年ぶり出場の福岡教育大の対戦だが、興味深い一戦になりそうだ。

福岡教育大では、何と言ってもMF10, 中原秀人(4年)に注目が集まる。昨年から特別指定選手としてJ2のギラヴァンツ北九州でプレーしているが、豊富な運動量と足元の技術はすでにトップカテゴリーでも十分通用する。プロのスピードにも順応し、リーグ戦でゴールを決めるなど成長著しい。4-4-2の布陣でボランチを務め、そのゲームメイクはチームを落ち着かせるとともにゴールへ向かうスイッチとなる。

一方、大阪体育大は今年の関西リーグで前期6位、関西選手権も延長戦の末に優勝を逃すなど、もう一つ波に乗りきれないが、ディフェンディングチャンピオンとして、この大会は負けられない。布陣は4-4-2が基本。前年に引き続いてゴールマウスを守るGK1, 姫野昂志(4年)や、1対1に強さを発揮するDF4, 濱上孝次(4年)らがしっかりと守り、素早いパス回しからゴールに迫る。攻撃では、1年生FW10, 澤上竜二に期待がかかる。

(読売新聞運動部 藤田真則)

第36回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント 2012年7月8日(日) 1回戦 GAME PREVIEW



平成国際大学 VS 阪南大学 12:30 KICK OFF 於:S9フィールド

初出場の平成国際大と、伝統校の阪南大がぶつかる。

平成国際大は今季から、埼玉県リーグから関東大学2部に昇格。西川誠太監督は「春からレベルの高いチームにもまれ、自分たちでも出来ると手応えをつかんできた」と初の全国の舞台に臨む。主将のMF6, 荻原健太(4年)、DF2, 須藤貴郁(3年)の活躍ぶりが、勝敗を左右しそう。荻原は中盤の底から攻撃を組み立て、時には相手陣に攻め込んで得点を狙う。関東選抜の須藤は、183cmの体格を生かした守備に加え、最終ラインからのロングフィードも得意。二人が攻守で目立つことが出来れば、流れを呼び込める。西川監督は「怖い物知らずで、全国の強豪に挑みたい」と意欲的だ。

阪南大は主力にけがが多く、ベスト布陣で臨めないのは気がかりだが、2001年大会以来の優勝を目指す。先発にはFW11, 泉澤仁、MF8, 窪田良、DF3, 二見宏志ら、経験豊富な3年が多く、DF19, 飯尾竜太朗主将(4年)とともにチームをまとめる。須佐徹太郎監督も「チーム内で刺激し合い、今年は総理大臣杯のために準備してきた」。昨年は初戦で敗退し、一発勝負のトーナメントの厳しさを思い知った。だからこそ今年は「流れが悪い時間をどうやってしのぎ、自分たちのペースに持っていくか」(須佐監督)をテーマに、チーム作りを進めてきたという。チーム一丸となり、11年ぶりの頂点に登り詰めた。 (読売新聞運動部 安田栄一)

福岡大学 VS 新潟医療福祉大学 15:00 KICK OFF 於:S9フィールド

優勝候補の福岡大に挑むのは、初出場の新潟医療福祉大。秋山隆之監督は「背の高い選手がそろそろ福岡大に、機動力で対抗したい」。FW9, 中田大貴(2年)は171cmと小柄だが、スピードあるドリブルが武器。すでに興味を示すJクラブもあるという逸材で、監督も「中田が前を向いて仕掛けるチャンスが増えれば、得点の可能性が高くなる」という。守備では、188cmの4, 坂井満月(4年)の働きがポイントになる。2年時から主将を務め、監督の信頼も厚い。高さ対策として、普段の左サイドではなくセンターバックでの起用もある。秋山監督は「相手の伝統や経歴に負けないよう『意志力』を鍛えたい」と初戦突破を目指す。

対する福岡大は、187cmの主将DF4, 牟田雄祐(4年)、185cmのMF19, 田村友(2年)ら、大柄な選手がずらりと並び、空中戦に絶対的な強さを誇る。加えて、MF8, 清武功暉(4年)は、日本代表の清武弘嗣(独ニュルンベルク)の弟として注目を集め、J1サガン鳥栖の強化指定選手としてJデビューするなど実力は十分。乾真寛監督も「選手の特長を生かして戦いたい」と語る。J1名古屋グランパスの快足FW永井謙佑を擁して優勝したのは2009年。1年生だった当時から試合に出場していた清武、牟田らが順調に成長してきた。圧倒的な高さ、積み上げてきた経験を武器に、頂点を目指す。 (読売新聞運動部 安田栄一)

青山学院大学 VS 姫路獨協大学 12:30 KICK OFF 於:S11フィールド

青山学院大は攻撃重視のサッカーを展開する。一戦必勝のトーナメント戦で、そのチャレンジ精神が発揮できれば面白い。FW11, 武富尚紀主将(4年)が最前線からチームを引っ張る。宮崎純一監督によると「一生懸命に走り、味方のために体を張ってボールを扱い、前を向いたらシュートまでしっかり持って行く」という典型的なストライカー。そこに、スピードが持ち味のFW18, 関谷祐(2年)、攻撃的MFの27, 荒木大吾(1年)、19, 石沢哲也(3年)が加わる。宮崎監督は8年ぶり出場の要因を「ミスを恐れず挑戦できたこと」という。予選の勢いを全国の舞台でも発揮したい。

姫路獨協大学は、昨季関西2部に降格した屈辱をバネに、選手が成長した。それが初出場につながったようだ。新チーム発足直前、外部講師を招き、目標達成へのプロセスやチームマネジメントについて学んだことで、「選手の自立が促された」と昌子力監督は言う。選手のやる気は上がり、練習中から互いを鼓舞し合うようになるなど、効果はてきめん。球の受け方一つで相手を翻弄できるというFW13, 川勝康平(4年)、対人プレーに強いDF3, 齋藤(ひばり)拓人主将(4年)は「今年に入ってすごくたくましくなった」(昌子監督)ようだ。スローガンは「センセーショナルにHimejiから」。昌子監督は「出場校の中で一番下手かも知れないが、一つや二つは驚きを与えたい」と闘志を燃やす。 (読売新聞運動部 安田栄一)

愛媛大学 VS 東海学園大学 15:00 KICK OFF 於:S11フィールド

2010年から指揮を執る愛媛大の秦敬治監督は、「ピッチ外で日本一にならないと、勝つ資格はない」と規律を重んじ、指導に当たってきた。練習中は靴とかばんをきれいに整頓する、トイレのスリッパを並べる。監督が細かく言わなくても、選手は自主的に行動する。これが「数秒、数メートルのプレーの違いを生むようになった」という。さらに「日本一、走っている」という体力が自慢。12分間走を3回行い、計9300メートル未満だと試合に出られない。プロでも厳しい数字だというが、今大会の予選でも終了間際の同点ゴール、勝ち越しが多かったように、粘り強さを生んだ。監督が「抜群の身体能力で、相手をなぎ倒すように進んでいく」というFW10, 続木崇浩(3年)を中心に、終盤に勝負をかけたい。

対する東海学園大は、3年前の初出場時の1年生が最上級生となり、チームを引っ張る。FW9, 嶋中博輝(4年)は個人技で局面を開けるスピードが持ち味で、MF6, 中村剣史郎主将(4年)は運動量豊富なプレーメーカー。MF10, 安藤武蔵(4年)も膝のけがから復帰予定と、準備万端整った。これまではボール保持にこだわり過ぎ、得点に結びつかないことも多かったが、安原成泰総監督は「結果を求めるようになり、ゴールへの意識が変わった」と胸を張る。勝負強さを全国の舞台で見せることが出来るか。 (読売新聞運動部 安田栄一)

専修大学 VS 日本経済大学 12:30 KICK OFF 於:S8フィールド

中央突破とサイド攻撃。持ち味は違うが、共に攻撃的な両チームが激突する。

初出場だが、昨年度の全日本大学選手権を制して実績十分の専修大は、ボール保持率を高くし、素早くパスを回して中央突破する攻撃重視のサッカーで頂点を目指す。前線の選手はいずれもボールコントロールに優れる中で、中心になるのはMF7, 長澤和輝(3年)。ドリブルで切り込む力もあり、攻撃にアクセントを加える。パスもさばけ、強烈なミドルシュートもあるMF8, 下田北斗(3年)が無尽蔵のスタミナでチームを支える。源平貴久監督は「優勝を狙えるメンバーが整った。1戦必勝で勝ち進みたい」と意気込む。

初の全国大会となる日本経済大は、両サイドのスピードを生かした攻撃的サッカーで挑む。攻撃の中心はMF10, 野村直輝(3年)。Jリーグのスカウトも評価するアタッカーは、独特のリズムのドリブルで左サイドを突破し、正確なキックでゴールを演出する。守備的MFの12, 伊藤卓(1年)は長短の正確なパスと運動量が持ち味で、チームを下支えする。久保山雅彦監督は「相手は強豪。守備的な戦いを強いられるかもしれないが、何とか1勝したい」ともくろむ。
(読売新聞運動部 濱畑知之)

関西大学 VS 富士大学 15:00 KICK OFF 於:S8フィールド

3年ぶりの出場となる関西大は、攻撃的なサッカーが身上。中盤にパスセンスあふれるMF7, 岡崎建哉(4年)とMF8, 和田篤紀(2年)が攻撃のタクトを振るい、左右に散らすだけでなく、ゴール前へ決定的なパスを通して攻撃陣を引っ張り、FW10, 安藤大介(4年)は小柄ながら豊富な運動量を武器に得点に絡む。守備陣を統率するDF23, 寺岡真弘(3年)からの正確なフィードも攻撃の起点となる。「相手のサッカーに関係なく、自分たちのサッカーを貫き通したい」と島岡健太監督。

一方、8年ぶり2度目出場の富士大は、チームが目指す「素早い攻守の切り替え」を実行し、攻撃回数を増やすことで主導権を握れるか。キーマンになるのが、アンカーを務めるMF5, 池田直樹(4年)。元々はDFだが、組み立て能力を買われてコンバート、中盤のバランスとしてチームを攻守で支える。前線では、果敢に飛び込むプレーが特長のFW13, 熊谷紋司(3年)は、相手を引きつける動きにも長け、抜け目がない。高鷹雅也監督は「相手は優勝候補だが、相手よりも攻撃的に出たい。当たって砕けるの精神で戦う」と初戦突破を目指す。
(読売新聞運動部 濱畑知之)

中京大学 VS 関西学院大学 12:30 KICK OFF 於:S10フィールド

ともにスピードあふれる攻撃が持ち味のチームが初戦でぶつかる。

3年連続出場の中京大は、攻守の切り替えからの速攻が持ち味。その起点となるのがMF10, 佐藤和弘(4年)で、技術はチームNO.1。広い視野を武器に、中盤の底から前線への鋭いパスが魅力。朝倉吉彦監督も「点を取らせるパスも出せ、自らも点を奪える選手」と評価しており、FW16, 石川誠也(3年)をはじめスピード、突破力に優れた選手が多い前線を生かす。昨年初戦敗退だっただけに、朝倉監督は「今年こそまずは初戦突破。勢いをつけ、決勝まで行きたい」と意気込む。

一方の関西学院大は、MF9, 浅香健太郎(2年)とMF26, 小林成豪(1年)の、タイプの違う両翼がサイドから1対1を仕掛け、リズムを作る。左サイドの浅香は細かなステップで相手を翻弄し、中央に切れ込んだシュートもあり、「得点も奪える、攻撃の生命線」(成山一郎監督)。右サイドの小林もしなやかなドリブルでサイドをえぐり、好球を配する。前線に若い選手が多い中、DF3, 井林章(4年)、DF5, 岡崎太一(4年)ら上級生が守備を固め、安定感をもたらす。成山監督は「初戦に全力を尽くす」と闘志を燃やす。
(読売新聞運動部 濱畑知之)

北陸大学 VS 国士舘大学 15:00 KICK OFF 於:S10フィールド

北陸大はボールポゼッションを高め、優位に試合を進めるサッカーで挑む。攻守のカギを握るのがMF6, 中山雄登(3年)。ゲームメーカーからアンカーまで務めるMFはボール奪取力に長け、決定的なパスも通す。FW26, 石原卓(4年)はシュートコースがあれば狙っていく積極性が光り、チームを引っ張る。2008年以降、全国ベスト4を目標にチーム作りを目指しており、西川周吾監督は「2回目の出場で、まだ果たせていない1勝を挙げ、勝ち進んでいきたい」と意欲十分だ。

一方の国士舘大は、前線に小柄な選手を多くそろえ、技術とスピードで勝負する。1トップを務めるFW10, 金子昌広(4年)は168cmと上背はないが、足元の技術と裏への飛び出しが光り、細田三二監督も「細かい動きで相手を惑わし、技量もあるから相手が嫌がるタイプ」と期待を込める。主将のMF7, 佐藤優平(4年)がチームを支え、センスあるDF15, 仲島義貴(1年)はグラウンダーのパスで前線へくさびのパスを通し、チャンスメイクにも加わる。細田監督は「1戦1戦、最善を尽くすに限る。暑い中での戦い方もポイントになる」と話す。
(読売新聞運動部 濱畑知之)

鹿屋体育大学VS駒澤大学 12:30 KICK OFF 於:S12フィールド

安定した守備に比べ、攻撃面が課題だった鹿屋体育大。井上尚武監督は大会前、FW7, 坂田良太(3年)をDFに転向させるなど試行錯誤を重ねてきた。期待は、スピードに乗ったドリブル突破が魅力のMF10, 小谷健悟(2年)とMF30, 湯浅寿紀(1年)。この2人を左右の攻撃的MFに配置し、長身2トップのFW9, 大瀬拓人(3年)、FW12, 中尾優作(3年)にクロスを合わせる形で得点力アップを目指す。鹿児島県の温暖な気候の恩恵を受け、「選手のスタミナには自信がある」と井上監督。運動量で圧倒し、まずは8強入りした1996年以来の勝利を狙う。

2010年大会で6度目の優勝を果たした駒澤大も主力が抜け、今は関東リーグ2部。「課題は守備。早い時間帯の失点が多く、リードしても逃げ切れない。試合運びが難しい」。そう話す秋田浩一監督は、守備の立て直しに取り組み、2大会ぶりの出場をつかんだ。2年前の決勝でもゴールを決めたプロ注目のエース・MF10, 湯澤洋介(4年)や、ヘディングの強いFW5, 宮城雅史(4年)、MF8, 碓井鉄平(3年)ら攻撃陣はタレントがそろそろ。秋田監督が目指す「8強」には、主将のDF4, 三澤祥馬(4年)ら守備陣の奮闘が欠かせない。(読売新聞運動部 風間徹也)

高知大学VS岐阜経済大学 15:00 KICK OFF 於:S12フィールド

32チーム最多の12年連続出場の高知大は、部員が初めて100人を超え、野地照樹監督が「誰を先発に使うか悩む」と言うほど選手層が厚くなった。その中で頼もしいのはMF8, 渡部亮武(3年)。読みが良く、意外性に富んだプレーで好機を演出するテクニシャンで、野地監督は「彼がボールに多く絡めば落ち着いて試合になる」。決定力の高いFW9, 福本圭、主将のDF4, 山部晃ら2009年の準優勝を知る4年生の戦力も充実。昨年は決定機を生かせず4大会ぶりに1回戦敗退の悔しさを味わっただけに、選手は「全国制覇」を合言葉に雪辱を期す。

1987年に創部して以来、初の全国大会となる岐阜経済大。04年に人工芝ピッチが完成するなど環境面が充実、選手の自主性を重んじる指導方針も実り、近年力をつけてきた。持ち味はパスワークを生かした攻撃サッカーだが、今年は一時チーム状態が落ち込み、守りを固める戦術にも取り組んできた。突出した選手はいないが、運動量豊富なMF21, 橋詰健史(4年)、ハートの強さで難しいシュートをねじ込むFW11, 緑悟(4年)らを中心にチームワークは抜群。高橋正紀監督は「とことん楽しみ、絶対にあきらめない。うちらしい戦いを見せたい」と意気込む。(読売新聞運動部 風間徹也)

びわこ成蹊スポーツ大学VS環太平洋大学 12:30 KICK OFF 於:S7フィールド

創部10年目にして初出場を決めたびわこ成蹊スポーツ大学。創部以来の目標は総理大臣杯、天皇杯、インカレの完全制覇。まずは初の全国舞台で、その足がかりをつかみたい。主将のDF4, 石間寛人(4年)を中心に粘り強い守備からの速攻を狙うが、攻撃の核となるのが、FW17, 松田力(3年)。2年時に関西選抜となった得点感覚に期待が掛かる。望月聡監督は昨年のワールドカップで世界一となった日本女子代表(なでしこジャパン)でアシスタントコーチを務める。世界の舞台を知る、その手腕も注目される所だ。

対する環太平洋大学は開学4年目で初出場した一昨年以来、2度目の出場。「全員守備、全員攻撃」を掲げ、初戦突破を目指す。攻撃のリズムをつくるのが、MF17, 藤本陽平(4年)。左右どちらからでも繰り出すパスは相手DFの脅威となる。昨年、1年にしてリーグ得点王となったFW11, 長尾善公(2年)のスピードも見逃せない。指揮を執る桂秀樹監督は横浜フリューゲルス時代、天皇杯優勝などに貢献。小柄ながらJリーグ創世記を盛り上げた熱い闘志がチームに行き渡れば、面白い存在となりそうだ。

(読売新聞運動部 佐藤毅)

道都大学VS筑波大学 15:00 KICK OFF 於:S7フィールド

過去2年、全国大会へ出場できる力を持ちながら発揮できなかった道都大学だが、その悔しさを胸に、チームワークを高めて4年ぶりの出場権を手に入れた。全員守備、全員攻撃の意識で上位進出を目指す。安定した守備を統率するのが、DF5, 佐藤大地(4年)。3年時から主将を務める抜群の統率力で苦境でもチームを鼓舞する。「道都大のファンタジスタ」と言われるのが、MF7, 佐藤明生(4年)。左利きを生かした左サイドからの正確なクロス、シュートは脅威だ。1年ながらボランチの一角を担うMF65, 坂本龍太郎の打開力にも期待が掛かる。

筑波大は昨季までチームを率いた風間八宏前監督がJ1川崎フロンターレ監督に就任。中山雅雄新監督の下、バルセロナのような華麗なパスワークで相手を圧倒するサッカーを展開。3年ぶりの出場権を手にした。チームの精神的支柱が主将のFW6, 不老祐介(4年)だ。抜群の身体能力を生かす万能型は「背中」で指揮官交代後のチームの動揺を抑え、逆に躍進に変えてきた。相手DFを置き去りにするスピードが魅力なのがMF18, 中野嘉大(2年)。まだ粗削りながら、潜在能力は未知数で大会を通した成長に1992年以来となる4度目の優勝がかかる。(読売新聞運動部 佐藤毅)



大会記念グッズ発売中！ ご観戦の記念に！！



全32チーム分！

チームストラップのほか、
イヤホンジャック付も販売。
スマートフォンに対応！

ご購入は・・・
総理大臣杯各試合会場と
(有)CUBにて
*関西学生サッカー連盟HPから



～ご来場の皆様へ～

試合のメンバー表はご来場の方々全員への配布は出来ません。

メンバー表はゲート付近にも掲示しており、また、試合前やハーフタイムにも放送しております。

お手持ちのプログラム等をご活用頂き、予めご了承くださいませようお願いいたします。

関西学生サッカーの聖地作り・・・それがわたしたちの夢。



関西学生サッカー未来・夢倶楽部

わたしたち、関西学生サッカー連盟は学生の、学生による、学生らしいサッカー、をモットーに、
清酒さ、若々しさ、ひた向きさ、を目指しています。

このような様々な思いを抱いてプレーし、想いを表現できる自分たちのピッチがあればいいなど
夢見ています。

わたしたち、関西学生サッカー連盟はホームスタジアム(仮称Sスタジアム)を持つという目標を
「未来・夢構想」としました。

わたしたちの未来・夢構想に賛同協力して頂ける支援者を求めています。

支援者の集まりを「関西学生サッカー未来・夢倶楽部」と名づけました。

どうか支援者として未来・夢倶楽部に仲間入りして頂くようお願い申し上げます。

Sスタジアムに行けば関西学生サッカーが見られる。
Sスタジアムに行けば関西学生サッカープレーヤーに会える。
Sスタジアムに行けば好きな大学チームのゲームが見られる。
Sスタジアムに行けばサッカー仲間に出会える。



スタジアムに行けば仲間に出会える！

未来・夢倶楽部会員はいつでも観戦無料

詳細は入場ゲートにて！



大会プログラム好評発売中！！ ～選手情報が満載 1冊1,000円～
前売りチケット発売中！！ ～準決勝以降は有料。ゲートにて絶賛発売中～

